医療安全に関するお願い

当院では職員が、患者さん、ご家族の皆さんとともに、医療の安全が守られ・質が向上するように努力しております。そのため、患者さん、ご家族にも、医療チームの一員として医療事故防止へのご協力をお願いしております。

1. 氏名の確認にご協力ください

採血・点滴・検査などを実施する前・お薬をお渡しする際に患者さんのお名前をお聴きしますので、「氏名」をお答えください。

職員は、患者さんのお名前と患者番号で本人確認を行います。

2. 転倒・転落予防にご協力ください

病院の環境は、ご家庭における生活環境とは違います。環境の変化、病気による身体機能の低下により、歩行時の転倒やベッドから転落する恐れがあります。転倒・転落予防には配慮しておりますが、転倒・転落により場合によっては骨折することもあります。以下の項目についてご協力下さい。

転倒・転落を防ぐためのお願い

- 入院中の履物は、かかとのあるゴム底の運動靴をお勧めします。スリッパやサンダル（クロックスなども含む）はつまずきやすく、脱げやすく、滑りやすいためお勧めしません。
- 病衣やパジャマは、自分の体に合ったものを選び、裾を踏まない長さにしてください。
- ベッドから降りる際は、オーバーベッドテーブルのように動く物にはつかまらないでください。
- 医療者から一人で歩くことは危険と判断された方は、一人で歩かずに必ずナースコールを押して看護師を呼んでください。
- 転倒する危険が高い方には、センサーマットを使用させていただくことがあります。ご理解・ご協力をお願いします。

転倒・転落をした後の注意

転倒転落をした場合は、すみやかに看護師を呼んでください。

転倒やベッドからの転落によって頭部や身体を打った場合、手足の骨折や頭蓋内出血（頭の中の出血）を起こすことがあります。頭蓋内出血の症状は、頭部を打った直後だけではなく、２～３日後や遅い場合には数ヶ月経ってから症状がみられることがあります。

転倒・転落後に以下の症状がありましたら、医師や看護師にお知らせ下さい。

- 頭痛が強くなる
- 吐き気や嘔吐がある
- 手や足の動きが悪くなる、しびれる。
- 意識がぼんやりする、眠くなる、なかなか起きられない。
- 喋りにくくなる。

転倒・転落を防止するために、移動などが困難と感じた時は、遠慮なくナースコールを押して看護師を呼んでください。

3. 医療安全に関する相談

医療安全に関する相談・苦情については、医療安全管理室（部門）が対応をいたします。

担当：	看護部	部長	山﨑　豊
	放射線科		三石　浩司
	看護部	副部長	小林　由美
	法人事務局　医事会計ｸﾞﾙｰﾌﾟ	主任	宮坂　裕也